



「第九」初演 100 年 関係資料特別公開

2024 年11月2日(土) ~ 12月26日(木)
和歌山県立図書館 南葵音楽文庫閲覧室



ベートーヴェン 交響曲第 9 番 作品 125

初演 1824 年 5 月 7 日 ウィーン

日本初演 1918 年 6 月 1 日 坂東俘虜収容所

← **日本人による初演** 1924 年 11 月 29,30 日、
追加公演 12 月 6 日 東京音楽学校奏楽堂

徳川頼貞(1892-1954)『蒼庭楽話』より

「私は長い間、ベートーヴェンの最大の傑作といわれるこの第九交響曲を、わが楽壇に於いて演奏させてみたいものだと思っていた。近く自分が建設する南葵楽堂の開堂音楽会にはできればこの希望を実現したいと考えて具体的に研究したのであるが、その当時の上野の音楽学校の管弦楽ではとてもこの望みは不可能であると知って残念で思っていたものであった。」

初公開

和歌山県に寄託されてから 7 年余り、この地での調査研究から南葵音楽文庫所蔵パート譜こそ日本人による「第九」初演奏で使用され、徳川頼貞が準備、提供した事実が明らかになりました。初演 100 年を迎えるにあたり、所蔵する資料を公開し、「第九」演奏の歴史を始動させた頼貞の貢献とその時代をたどります。

南葵(なんき)音楽文庫とは

公益財団法人読売日本交響楽団所蔵の約 2 万点からなる楽譜・音楽書を中心としたコレクション。そのうち約 1 万点は徳川頼貞が設立した南葵音楽楽図書館に由来。ベートーヴェン自筆楽譜など貴重資料を含む。2017 年～和歌山県に寄託・公開。



指揮者

グスタフ・クローン

G・クローン著

乙骨三郎訳

『実際の歌唱教法』1925 年より



徳川頼貞

初演の独唱者たち



長坂好子(ソプラノ) 曾我部静子(アルト) 澤崎定之(テノール) 船橋榮吉(バリトン)



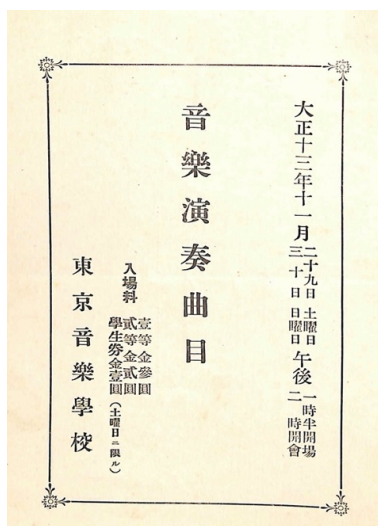
展示場所 ミニ・ガイドツアー

11/2(土)、11/30(土):14 時

11/3(日・祝)、12/1(日):11 時

南葵音楽文庫閲覧室内、入口前の展示ケースに展示。参考資料ふくめ 5 セクション 40 点余からなり、初公開の 1~2 セクションは閲覧室内。閲覧室入室:入口設置の所定用紙に記入。閉室中の場合はカウンターに申し出てください。

南葵音楽文庫研究員による紹介(約 30 分)を上記日程で実施。無料、予約不要。会場の閲覧室にお越しください。各回 10 名程度。多数の場合はグループ分けのうえ実施します。



初演プログラム表紙

主催:和歌山県立図書館 073-436-9520